

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099300024
法人名	有限会社 祝
事業所名	グループホーム 桜木荘
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄2549番地の1
自己評価作成日	平成25年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年11月16日	評価結果確定日	平成26年3月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元の小学校や行政区とつながりを持ち地域の方々との付き合いを大事にしている。また入居者様が毎日いきいきと生活していただけるように職員と一緒に「買い物に行ったり四季を通じて色々な所に外出している。施設の裏には桜木荘農園と名付けた畑があり、入居者様と職員で共に作業して収穫した野菜を食卓に提供している。米も地元農家からの新米を使用している。入居者様やご家族にも好評を得ている。訪問歯科、訪問理容などのサービスも行っている。運営推進会議も2ヶ月に1回定期開催しご家族からの意見や要望・行政区長・役場の福祉担当職員・地域包括支援センター・社会福祉協議会からの情報など、意見交換を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目であるが、小学校の介護体験の受け入れや町内の盆踊り開催、運動会、そうめん流しといった行事を主体的に実施し、地域との関係性やつながりを短期間で構築しつつある。高台に広大な敷地を有し、開放感のある生活環境の中で、自然体で暮らしている利用者の方々の豊かな表情が印象的である。畑でとれた野菜を中心に、食生活も充実しており、理念とモットーに基づいた、やさしく丁寧なケアの実践が伝わってくる。町の福祉拠点として、認知症の啓発や地域密着型サービスとしての情報発信という、地域での役割を果たすために、関係機関へも積極的に働きかけを行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲げ理念にもとづいた介護ができるように努めている。	事業所独自の理念に基づき、職員が「モットー」という形で具現化し、「情熱を持って前向きに」を追加するなど、事業所内で共有し見直ししながら、日々の介護に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員も地域から雇い管理者も地元なので地域とのつながりがあり交流も行っている。	入居者、職員共に地域住民として、小学校との交流(介護体験の受け入れ)や行事(運動会・そうめん流し等)を開催し、地域とのつきあいを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政区長とも話しあって施設の入居者の認知症の方々の理解をしていただけるようにしている。また、地域の方々からの施設の受け入れや相談、要望にも快く応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し行政職員、行政区長、ご家族、地域包括の職員等が参加され施設での状況報告、事故報告、行事報告などが行われ、意見や要望などを伺いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、家族、行政区長、町役場職員、地域包括支援センター職員の参加を得て、定期開催されている。全家族への開催案内を行い、日曜日の開催等、参加しやすいよう配慮を行っている。意見交換やアドバイスを受け、サービス向上に結び付けるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の福祉担当者職員と連携をとり協力関係を築いている。また広域連合や地域包括センターの職員にも施設の相談や指導を仰いでいる。	運営推進会議には、行政担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ており、家族会開催の助言等を頂いている。また、ケースワーカーの方との連携も図り、情報共有や空床の問い合わせに対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の職員会議の中で身体拘束についての学習をして理解している。また玄関も天気が良い日など施錠はせずにオープンしている。	職員個々が講師役を担う研修計画の中に位置付け、禁止の対象となる具体的な行為や、抑圧感のない暮らしについて、共有認識を持てるよう取り組んでいる。開放的な生活空間と、日光浴や散歩に日常的に取り組んでおり、夜間の良眠にもつながっている。日中は施錠されておらず、センサーの利用もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで話し合い虐待がない安心で入居者に優しい介護に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者様はおられない。またご家族の方々との交流を図り質問に答えるようにしている。	現在、制度を活用している方はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度については、年間の研修計画に組み込み、学習する機会を作るようにしている。今後は、家族や地域に向けて、行政や地域包括支援センターとの連携による出張講座の開催等にも期待したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い締結時にも再確認をしている。解約時や改定等の際は入居者様やご家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者様やご家族に意見や要望を聞くようにしている。それら吸い上げた意見や要望を施設に反映させるように努めている。	日常の来訪時やアンケート調査により、意見や要望の収集に努めている。接遇や居室の衛生面に関する意見等を真摯に受け止め、振り返りをしている。また具体的な対策や「自立支援」に関する方針を伝え、家族との良好な関係づくりに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の仕事の中で気づいた事や職員会議などで出された意見や要望・提案を施設の行事や運営に取り入れている。	物品の購入や情報共有の要望等、職員会議や日常の中で見出された意見や要望をその都度検討し、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めてはいるが、給料水準や休憩時間がとれない、などの指摘もある。職場環境・条件の整備にも努めてはいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢などの理由で採用から排除することはない。本人のやる気と介護に関心のある人を採用するようにしている。また個々の職員がいきいきとやりがいを持って勤務できるように支援している。	職員の採用にあたり、年齢や性別、資格等により、対象から排除することはない。その反面、キャリアがある職員のモチベーションの維持に対する取り組みを検討している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議や申し送りなどで入居者様の人権について話し合っている。	認知症の方々の人権や権利擁護について、管理者による研修実施や、職員が持ち回りで担当する勉強会の中で、意識を高めている。今後は、外部研修への参加や、行政による出張講座等の取り組みも期待されます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームケアを大切に一人ひとりのケアの実際、力量を把握し法人内外の研修を受けるようにしている。社内での勉強会も行い職員の質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところ交流する機会。場など設けてはいない。地元の同業施設との交流はしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話での問い合わせ時、見学時の時から本人が困っている事、不安な事、要望などを聞いている。本人が安心して生活が出来るようにご家族とも信頼関係を築くようにつとめている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事や不安に思っている事、要望等に常に耳を傾けて安心できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人とご家族様の要望を聞き一番して欲しいサービスから支援し順に他のサービスも含めた支援を行い本人とご家族様が満足できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝、昼、夕と入居者様と職員は同じ食事をし、共に洗濯物を干したり、炊事を手伝っていただいたり、家族のような関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様に本人のわからない事や支援していく上で大事な事など相談しながら絆を大切にしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や友人が面会に来られる事も多く本人との時間を大切にしている。本人との関係が途切れないように支援している。	これまでのなじみの場所へ出かけ、家族に対しては、毎月写真や報告書を郵送し、今の生活状況を知っていただくようにしている。また、地域の清掃除に参加するなど、これからのなじみの場所となるようにも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士の関係を把握し一人ひとりが孤立しないように常に声掛けを行い談話室での行事やレクリエーションにできる限り参加していただけるように努力している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだそういった入居者様はおられないが契約が終了した時などはこれまでの関係性を大事にし、相談や支援に柔軟に対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様に要望を聞き希望、意向に沿った支援に努めている。一人ひとりの思いや暮らし方を大切にし困難な入居者様は本人本位で対応している。	利用者の方1名に対し職員2名の担当制で、個々の思いや希望の把握に努め、可能な限り、その都度、実践につなげるようにしている。今後は、認知症ケアの視点を確保し、日々の会話や関わりが、より客観的な支援の根拠となることが期待されます。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から契約時にいただいた入居者様の生活歴や暮らし方、生活環境、これまで受けられたサービスなどを職員全員でこれらの情報の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通し入居者様一人ひとりの過ごし方、心身状態を全職員が把握して支援をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望や意見を反映させより良く暮らすための課題とケアを全職員がモニタリングに意見やアイデアを出し合い現状に応じた介護計画を作成している。	担当介護職員が利用者の思いやニーズを導き出し、目標を立て、介護計画書を作成している。また計画作成担当者が1~3表を作成し、3か月ごとに評価し、日々の介護記録は排泄表・バイタル表・ノート等にて共有している。	一つ一つの帳票の内容は細かく記載されているが、介護計画に沿った介護実践となるように、今後は一連の流れ・帳票間のつながりや根拠が明確になるよう、効率的かつ有効な帳票整備を期待します。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個々の介護記録、申し送り記録、バイタル記録、その他の記録など、毎日記録し、全職員が共有できるようにしている。また、実践や介護計画の見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が来園された時などに可能な限り管理者や職員は意見や要望を聞きその時のニーズに応えるようにしている。柔軟な支援を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政区、役場、小学校などと協力関係を築きながら入居者様が安心して笑顔で楽しい暮らしができるように地域資源を活用して支援をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療に来ていただいていたが本人やご家族様の希望もあり今月よりそれぞれの、かかりつけ医に受診されている。専門医療が必要な時はその都度対応している。	利用者ごとのこれまでのかかりつけ医を尊重し、受診している。家族が同行できない場合は、職員が同行している。1回/月、歯科訪問診療も実施されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護をやめたので、かかりつけ医の看護師に相談しながら入居者様が適切な受診や看護を受けられるように支援していきたい。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した時など安心して治療できるようにご家族様や病院関係者などに連携を図りながら支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、本人やご家族様と話し合いをして施設として出来る事を説明して方針を共有して同意を得てその後のあり方を支援していきたい。	事業所では、急変に備え消防署の救急演習を予定している。看取りに対しては、今後希望があれば対応できるよう、かかりつけ医との連携を検討している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に備えて談話室や事務所に緊急連絡先を掲示している。また年二回、消防署に来ていただき訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などに備え施設自衛の役割分担を決めて事務所に掲示している。また、地域の方々にも日頃から協力を仰いでいる。	開設来、初めての避難訓練を行い、スムーズにはいかないことを実感している。管理者が近隣に住むため、即時の対応も可能であるが、今後も夜間想定訓練を予定し、災害対策に継続して取り組む意向である。	現在、担送4名、夜勤は職員1名であり、夜間想定訓練の必要性があり、具体的な対応や、近隣住民や消防団との協力体制についても、継続して働きかけていく必要があります。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	若い新人の職員にも入居者様のプライバシーや言葉使いに気をつけるように言っている。まだ至らない点もあるが努力している。	家庭的な雰囲気理念とし、「やさしく丁寧に」をモットーとしている。理念に沿った対応を個々に応じて行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の理念・モットーである、自分らしい生活を送り笑顔で楽しく生きがいのある毎日を過ごすために入居者第一で、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族の要望に合わせて支援をしている。また、月1回、訪問理容の方に来ていただき希望者には散髪、カットをしていただき、その人らしい整容ができるように支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食べたものを話したり下準備や時には味付けもしていただき畑で採れた野菜(収穫も一緒に)を調理して食事を楽しんでいる。	職員が献立を作成し、利用者とともに買い物や皮むき、下準備などを行っている。畑でとれた野菜や、家族からの差し入れを頂くこともある。野菜を中心に、水分を多く摂取することで、脱水・便秘予防にも努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に個々人の食事摂取量、水分量を記入し少ない時は調理の工夫をしたり(極きざみや水分に甘み、ゼリーにして水分を摂る)十分に摂取していただけるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様全員に起床時と毎食後の口腔ケアを行っている。一人ひとりに合わせて介助を行い義歯の洗浄、消毒の管理をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し今のところ全入居者様がトイレでの排泄を行っているので現状を維持しながら本来の排泄に心掛けている。	介護度の高い方も入居されているが、日中オムツの使用はない。声掛けにてトイレまで誘導し、下肢筋力・機能訓練の一環として、個別のアプローチを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる原因を常に考え繊維質な食物の摂取や水分量の確認、散歩など運動の声掛けをし排便が困難なときは腹部マッサージなどを行い3日以降は担当医とも相談し便秘薬にて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望、その日の体調に合わせて支援をしている。入浴拒否された時も無理強いはせず本人の希望に沿って支援をしている。	隔日の入浴日の設定はあるが、希望や状況、体調等に配慮し、無理強いとならないよう、柔軟に対応している。毎日の入浴も可能である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調、その時の状況に応じて安心して休んだり、夜間も安心して気持ち良く眠れるように四季を通じて冷暖房の空調調節にも気を配っている。(衣類や寝具にも)		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量についても理解しバイタルチェック表にも必ず服薬確認を記入している。また変化のある時は委託医師に連絡・相談し観察を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事を普段の会話の中で見つけ出し楽しんで気分転換できるように、また他の入居者様とも共有できる作業への参加の声掛けも行い生活に張り合いがもてるように支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて散歩をしたり、畑にいったりしている。また外出行事を企画して四季を通じて出かけている。	天気の良い日は日常的に玄関前で日光浴をしている。また、英彦山や岩石城まつりなど1回/月は外出を企画し、実施している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設がお金を管理しているが一緒に買い物に行った時などは職員立ち会いのもとでお金を払っている。本人の希望に合わせて使えるように支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話をいつでも使えるように支援している。今の所そういった入居者様はおられない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の中が殺風景にならないように入居者様みんなで作った手作りのペーパーフラワー、行事の折の写真、貼り絵などを壁に飾っている。楽しく季節感がわかるように努力している。	リビングは窓が大きく開放的で、山々や畑が見える。高台に位置しており、見晴らしもよく、穏やかな生活がみとれる。トイレや浴室は車いすでも十分対応できる広さがあり、清潔感がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室ではカラオケ、パズル、ビンゴゲーム、マッサージ機などで一人ひとりが思い思いの時間を過ごせるような居場所作りの工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を置いたりご家族の写真を飾ったりご自身の家と思っていただけのように支援している。(時にはご家族の泊りもあります。)	各居室には、塵取りと箒を置いてあり、職員が声掛けしながら、できるだけ自分で掃除できるように促し、力を発揮する場面として、また、暮らしの営みの継続を支援している。ベッドは設置されているが、冷蔵庫やテレビなど自由に持ち込みができ、個人の空間作りに配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には大きな字で名前を書いて居室がわかるようにしてある。一人ひとりが安心して自立した生活が送れるように安全に配慮している。		